

東京農工大学教授 高田秀重さんに聞く

年 組 名 前

プラ削減の第一歩 レジ袋有料化



東京農工大教授 高田秀重さんに聞く
高田秀重 東京農工大学農学工学部生産環境学系准教授。環境学博士。米ワシントン大学で海洋学を専攻し、博士号取得。環境化学、海洋化学、海洋学、海洋工学を専攻。2007年から現在、「共通に」環境汚染

たかた・ひでし
1959年東京都生まれ。東京都市立大環境学博士号取得。環境化学、海洋化学、海洋工学を専攻。2007年から現在、「共通に」環境汚染

視標

生物の胃の中から、しどの化学物質が添加剤として入れられており、中には有害なものも含まれている。レジ袋は野外で楽に処理できるものではない。レジ袋は野外で楽に処理できるものではない。レジ袋は野外で楽に処理できるものではない。

問題の製品は他にも

問題はレジ袋だけではない。スーパーマーケットのレジ袋以外にも、コンビニエンスストアのレジ袋、生鮮野菜のポリ袋、お弁当の容器など、レジ袋以外のプラスチック製品も多く、削減の対象となる。レジ袋以外にも、スーパーマーケットのレジ袋以外にも、コンビニエンスストアのレジ袋、生鮮野菜のポリ袋、お弁当の容器など、レジ袋以外のプラスチック製品も多く、削減の対象となる。

問1 「プラ削減」の必要性が言われていますが、「プラスチック」の環境汚染についてまとめましょう。（抜き出しましょう。）

問2 「レジ袋有料化」はどのような意義があると考えますか？

また、今後 日本はどのように取り組んでいくべきだと考えますか？

(2020年7月7日付 上毛新聞6面)